

今後の治水対策のあり方について 中間とりまとめ（案）に関する意見

① 氏名 (フリガナ)		鈴木 郁子 スズキ イクコ			
②住所		(都道府県名)	(市区町村以下)		
		群馬県			
③電話番号		0 2 7 - 3 7 3 - 5 6 7 2	メールアドレス		
④職業				⑤年齢	⑥性別
意見該当箇所		⑦御意見			
頁	行	(200字を超える場合は200字以内の要旨も記載)			
1	14～ 21	<p>――はじめに――</p> <p>このような我が国の現状を踏まえれば、税金の使い道を大きく変えていかなければならない。こうした認識のもと、「できるだけダムにたよらない治水」への政策転換を進めるとの考えに基づき今後の治水対策について検討を行う際に必要となる、幅広い治水対策案の立案手法、新たな評価軸、総合的な評価の考え方等を検討するとともに、さらにこれらを踏まえて今後の治水理念を構築していくこととなった。</p> <p>【意見】</p> <p>新機軸の指針として、当初は心躍った。さすがは「コンクリートから人へ」を標榜する新政権と心みなぎるものがあつた。</p> <p>しかし、後述する、P16～17に至って、高揚感は霧散。「正体みたり」の感をぬぐえない。お決まりの美辞麗句の列記に他ならぬと失望させられた次第である。</p>			
1 5	18～ 20	<p>――第3章 個別ダム検証の進め方――</p> <p>なお、検証が終了するまで、国土交通省は当該ダムについて用地買収、生活再建工事、転流工工事、本体工事の各段階に新たに入ることとなる予算措置を講じないものとする。</p> <p>【要旨】</p> <p>検証後は、趣旨が徹底され、明確な筋道をつけられることには、少なからず安堵した。</p> <p>【意見】</p> <p>この文言に接した際には、「遅すぎた」と無念でならなかった。</p> <p>というのは、今や新政権の試金石として話題のわが八ッ場ダムは、昨年9月17日</p>			

		<p>未明、「中止」との朗報に沸いたが、総額 4600 億円の 1 割にも満たぬ、約 9%ほどのダム本体工事費を除く、ほぼ満額の 154 億円の 2010 年度予算が付けられるに及ぶ。これでは事実上の着工体制であり、工事は続行。否、むしろ工事はピッチをあげている。</p> <p>さらにまるで春泥にはまったような、どっちつかずの宙ぶらりんの日々にさらされている。</p> <p>通常感覚なら「中止」ならば、全て「凍結」。精査して必要なもののみ造るのが妥当ではなかったか。現実にはハッ場の一部の住民たちもそのように考え期待していたものだった。</p> <p>そして、前原大臣の「中止」宣言の時に素早く、この指針が発令されていれば、この 1 年間に切り刻まれた山河の自然破壊はくい止められたらうにと、口惜しい限りである。</p> <p>ことのついでに、迷走状態をもう一つも記せば、</p> <p>① 民主党政権は政権獲得後、負担金の全額返還を公言→ところが、3月中旬に受益県であった下流都県に 2009 年度分の負担金を請求していたことが判明→成り行き上、下流都県が異議を唱え「建設推進」を強く主張するのは当然であった。</p> <p>② 遅々として次の一手の打開策なしの宙ずり状態に業をにやした 1 都 5 県知事は本年 7 月 27 日、負担金支払留保を宣言するに及ぶ→すると、新政権は下流都県に支払いを「請求する」旨の見解を出す始末。</p> <p>一貫性がなさすぎないか。</p> <p>いかに前政権のしりぬぐいに錯綜としているとはいえ、現政権の場当たりの混乱ぶりには、地元民ならずとも困惑せざるを得ない。</p> <p>ともかく、迷走状態を脱して欲しかった。従って、遅まきながら「凍結」決定後のこの部分についての英断には期待してやまない所以である。</p> <p style="text-align: center;">—— 3. 1 検証の概要 ——</p> <p>後述するとおり、個別ダムの検証に係る検討に当たっては、これらの法令に準じ、関係者の意見聴取等の手続きを組み込んで進めるものとする。</p> <p>【要旨】</p> <p>「関係者」の中には、当然、水没当時者も入るものとするが、次の章「3. 2 検討主体」においては言及されていない。「1. 4」では、「域と一体となった治水対策のあり方」と流域との一帯感を謳っているのにである。そこで再考を求めたい。</p>
16	13～	
	15	

<p>16 ～17</p>	<p>17</p>	<p>【意見】</p> <p>現地のことを当時者に聞かずして、どうするのか。 地元のことは、地域に聞くのが妥当であり、本道。</p> <p>この間、本当に治水を守る気持ちがあるのか、それとも長引かせて「仕事」のための仕事づくりを行い、献金の額を増やさせるのが裏仕事なのか判り兼ねた、前政権下の「国土交通省」「地方整備局」などに最終的な責任の帰結をゆだねるのは、「有識者」メンバーの見識が問われかねない。しかも、非公開の“有識者”なる方達の机上の試算のみの論理にて決めるのは、おかしすぎる。</p> <p>なお、くれぐれも現地の意見は、体制側がお膳だてした“御用町民”でなく、草の根的に探し出した、幅広い識見を持つ方の意見を聴いていただきたいものと願う。</p> <p>※矛盾点について</p> <p>—— 3. 2 検討主体 ——</p> <p>いわゆる「直轄ダム」～、河川管理の実務の大部分を実施していることから、地方整備局とともに行うことが不可欠であるからである。また、補助ダムについては、地方整備局等が必要に応じ協力する。</p> <p>【意見】</p> <p>この「検討主体」の一文にて、有識者会議の全容を見させられた感がする。この国の河川政策の不備というか体質が積もり積もって、今日の河川行政の荒廃を生んでしまったことは、今や自明の理。</p> <p>その反省点にたつての冒頭の文言ではなかったか。</p> <p>※最後に</p> <p>現段階では個別のダムには触れないのは理解してはいる。</p> <p>けれども、指針がまとまった暁に最も影響を受けるは、未だ行方定まらず、待ち望んでいる「八ッ場ダム」の動向であることは、周知のことである。</p> <p>そこで、八ッ場ダム問題に連なる者として、僭越ながら、次の数点の現状を、いささか極論的に記し、然るべき生活再建策の指針づくりの一助として戴きたい。</p> <p>① すでに、58年目に突入の現地は、疲労の極にある。 明日の指針がたたぬことくらい、辛く切ないことはなく、これ以上の放置は人権問題の域を超えつつある。</p> <p>② なお、現地の「やんば館」の展示物は、現況に即したものに展示替えし、必要</p>
-------------------	-----------	---

		<p>最低限のパンフレットは早急に整備すべきである。無策のままの一カ年はひどすぎる。</p> <p>③ そして、何よりも、成すべきことは足しげく現地を訪れ、現地の幅広い声に耳を傾け、人間の響きあいを深めることであろう。</p> <p>今にして、膠着化した現状打破の術策中、最も効果のあったと思われるのは、田中康夫前知事の提言のように、初期段階における前原大臣の膝詰め交渉ではなかったろうか。</p> <p>その意味で夢物語として、一笑にふされるのを覚悟の極論を申せば、旧盆の本日辺り、激務をぬっての墓参りと称して、前原大臣がフラリと長野原町を訪れてみてはいかがと思う次第である。</p> <p>現地は義理と人情のある党の巧みな演出にどっぷりとつかった気質があり、それゆえに昨年9月23日、彼岸の中日に訪れたことにあれほど怒った経過もある。こういう時こそ、ヘリコプターを駆使しても国民は文句は言わないだろうに……</p> <p>解決策が、長引けば長びくほど、現地は翻弄され疲弊していく。</p> <p>以上、時間的制約にて心急かれ、意をつくせぬもどかしさのままに、脈絡なく甚だ勝手な私見を述べさせて戴いた次第である。どうぞ、ご寛容のほどを。</p>
--	--	---